

農事組合法人おおしお北部



1 現在の活動状況等

(1) 経営理念、目標

- 東松島市大塩地域の農業振興及び農地の再編に貢献する。そして、組合員の農業生産についての協業を図ることにより、その生産性を向上させ、組合員の共同の利益を増進する。

(2) 生産技術の特徴

- 乾田直播導入で省力・低コスト化を進めている。
- 転作作物は、水田で年2作体制を確立し、農業機械の汎用的利用を進めている。
- 機械化一貫体系による汎用化水田における大規模な加工用ばれいしょの栽培に取り組む（令和5年のばれいしょ栽培面積は県内最大の27ha、収量は574t）。

(3) 販売面の特徴

- 米、大豆：JA系統販売
- 牧草、飼料用とうもろこし：県内畜産農家と契約販売
- ばれいしょ：カルビーポテト株式会社と契約販売

(4) 経営組織の特徴

- 集落営農組合から発展したオペレーター型の農事組合法人である。
- 役員4人と組合員11人が、農作業に従事している。

(5) 労務管理の特徴

- 休日制の導入
社員は、日曜日、第2・第4土曜日が休日である。
- 役割分担の明確化
水稻の飛び地は、近くの組合員が管理している。
- 地域からの臨時雇用の導入
ばれいしょの播種と収穫作業に地区の女性をパートとして雇用している。

(6) 経営管理の特徴

- 庶務・会計処理は担当者を置き、適切な事務処理に

努めている。

- 財務、税務管理は顧問税理士に依頼し指導を受けている。

(7) その他、特筆すべき事項

- 農地中間管理事業の活用
- 地域社会等との連携
小学校の田植え、さつまいも、えだまめ栽培の食農教育の支援を行っている。
- 実需者のじゃがいも収穫体験を受け入れている。
- 加工用ばれいしょ導入の経緯と生産拡大
実需者との契約による加工用ばれいしょ導入の経緯は、平成29年に水田における高収益作物生産としての取り組みが始まりである。機械化一貫体系を導入したことにより、令和5年の栽培面積は27haとなり、農業経営を支える1部門として確立している。
- 飼料用とうもろこし導入の経緯と生産拡大
輪作体系として畜産農家と連携した飼料用とうもろこし栽培は、ほ場の透水性の改善・維持を図り、併せて連作障害回避対策としてのクリーニングクロープとしての効果を期待して経営に取り入れている。

2 法人設立までの変遷

(1) 法人設立までの動機、きっかけ

- 任意組織として地域の集団転作を担い経営を行ってきたが、農家の担い手不足・高齢化に加え、米価の低迷など農家をめぐる環境が厳しさを増す中、地域農業の受け皿とその発展に向け、組合員の農業生産の協業を図ることにより、その生産性を向上させ、組合員共同の利益を増進するため、平成27年に法人を設立した。

(2) 法人化に至る経過等

- 平成19年6月19日

経営のプロフィール

経営概要

水稲 11ha、大豆 64ha、牧草（イタリアンライグラス）77ha、飼料用とうもろこし 9ha、ばれいしょ 27ha（令和5年現在）、水稲直播作業受託 40ha

主な施設・機械の保有

パイプハウス168㎡3棟、トラクター146ps 1台、トラクター120ps 1台、中耕培土機3台、フォークリフト1台、真空播種機1台、大豆コンバイン2台、レーザーレベラー1台、グランドリル2台、ケンブリッジローラー1台、ポテトハーベスター1台、ポテトプランター1台、種芋切断機1台、ばれいしょ選別機昇降機1台、深耕アッパーローター1台、ピークル1台、ブームスプレーヤ3台、トレーラー3台、マニアスプレッタ1台、溝堀機1台、ホームチョッパー1台、パワーハロー1台、スタブルカルチ1台、ブロードキャスト2台、ドローン1台

構成員等

- 組合員：11人
- 役員(理事)：4人
- 従業員(常時雇用)：社員1人、臨時1人

法人設立年月日

平成27年3月23日

認定農業者認定年月日

平成27年3月25日 更新：令和2年3月25日

資本金

900万円

販売額等

販売額：8,000万円
収入算入交付金等：8,000万円（経営所得安定対策等）

役員名

代表理事：大崎 康
理事：阿部 勝徳、大崎 勝一、千葉 節男
監事：邊見 儀政、木村 喜有

その他

- 農業地域区分：平地
- 組織形態：オペレーター型
- 事業範囲：複数・広域集落
- 事業範囲内の農地集積率：東松島市 84.5%（作業受託含）

おおしお生産組合として23戸で、オペレーター型の集落営農組織として設立。

- 平成25年～26年

法人化研修を経て、法人化に向けた協議を行う。

- 平成26年～27年

おおしお生産組合の5人が発起人となり、事業目論見書・定款の検討、創立総会及び登記手続きの準備を行う。

- 平成27年3月1日

農事組合法人おおしお北部創立総会

(3) 法人化後の評価

- 取引先から信用され、契約を締結しやすくなった。
- 融資枠が拡大した。
- 資金の繰り越しができるようになり、計画的に設備投資できるようになった。

3 今後、将来に向けてのビジョン等

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

- 泥炭地の畑地化により、転作作物の栽培面積を増やし、経営の安定と所得の向上を図る。
- 地域における農業従事者の高齢化や担い手不足対策として、水稲直播面積を拡大する。

(2) 達成へ向けた課題及び取り組み状況

- 適切な排水対策・輪作体系の構築
水田転作ほ場のすべてに明きょ、土質条件により弾丸暗きょ、又はサブソイラーを施工している。また、水稲（直播）、大豆、加工用ばれいしょ、牧草、飼料用とうもろこしを輪作体系を導入し、水田の高度利用化を図っている。
- パート作業員の継続雇用
ばれいしょの播種と収穫作業に地区の女性をパートとして継続的に雇用している。

- ばれいしょ専用機械利用の最大化

ほ場1区画当たりの面積を大きくすることで作業時間を短縮している。また、近隣法人のばれいしょの播種や収穫作業を受託し、機械利用の効率化を図っている。

（調査 石巻農業改良普及センター）

略図



農事組合法人おおしお北部

〒981-0505

東松島市大塩字三ツ谷66番地

TEL：0225-98-8251 FAX：0225-98-8252

Eメール：ooshiohokubu@mx31.ne.jp

視察受入条件 受入可

主な条件：
視察目的を明確にしたうえで、普及センターを通じて御相談ください。
連絡先：石巻農業改良普及センター
先進技術第二班 TEL 0225-95-1435